

令和5年度

石巻市教育委員会の活動状況に関する

点検及び評価報告書

(令和4年度実績)

令和5年7月

石巻市教育委員会

令和5年度石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価の実施について

1 事業の概要及び目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条では、「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。」と規定されております。

また、実施に当たっては、「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るもの。」と規定されております。

このことから、教育委員会の活動状況に関する点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を公表することにより、市民に対する教育行政の説明責任を果たすとともに、適正かつ効率的な教育行政の運営に資することを目的とします。

2 根拠法令

- 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

- 石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価実施要綱（平成20年石巻市教育委員会訓令第7号）

3 令和4年度 点検評価実施内容について

(1) 点検・評価の対象事業について

令和4年度に実施した第2期石巻市教育振興基本計画実施計画に定める118の事業のうち、安全に安心して学べる教育環境整備の推進から3事業、社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実から5事業、いのちを守る防災教育の推進から1事業、地域ぐるみで子どもを育てる教育活動の推進から2事業、豊かな地域社会を育む生涯学習の推進から1事業の合計12事業を選定しました。

(2) 点検・評価の方法について

選定した事業について事業調査票を作成し、令和4年度における実施状況及び成果の自己点検・評価を行い、この結果を基に学識経験者からの意見聴取を実施し、本報告書を取りまとめました。

本報告書については、市議会第3回定例会に提出するとともに、市ホームページに掲載し、公表いたします。

令和5年度石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価対象事業一覧

番号	事業名	担当課	頁
1	情報教育環境整備事業	学校管理課	7
2	奨学金貸与事業	学校教育課	11
3	小・中学校再編事業	学校再編推進室	15
4	学校わくわくプラン事業	学校教育課	19
5	学力向上推進事業（家庭学習の啓発）	学校教育課	23
6	運動能力向上推進事業	学校教育課	27
7	相談体制充実事業	学校教育課	31
8	幼保・小連携推進事業	学校教育課 教育総務課 子ども保育課	35
9	学校防災推進事業	学校安全推進課	39
10	放課後の子どもの居場所づくり事業	生涯学習課	43
11	コミュニティ・スクール推進事業	学校教育課	47
12	いつでも・どこでも・だれでも情報利用整備事業	図書館	51

令和5年度 石巻市教育委員会の活動状況に関する 点検及び評価説明会・意見聴取会

1 学識経験者への説明会

- (1) 開催日時 令和5年6月8日(木) 午後2時
- (2) 開催場所 市役所4階 402会議室
- (3) 事業内容の説明

令和5年度教育委員会の活動状況に関する点検及び評価値調査票に基づき、担当課・室・館長から説明を行い、説明に基づいて学識経験者からの質問に対し、回答いたしました。

2 学識経験者からの意見聴取会

- (1) 開催日時 令和5年7月3日(月) 午後1時30分
- (2) 開催場所 市役所6階 市議会3・4委員会室
- (3) 学識経験者から、事業ごとに意見を聴取し、その後、全体を通しての総括的意見を聴取いたしました。

3 学識経験者

氏名	役職等
横江 信一 氏	石巻専修大学人間学部人間教育学科特任教授
橋本 恵司 氏	元石巻市立稲井小学校長
吉田 和美 氏	特定非営利活動法人にじいろクレヨン

4 学識経験者からの意見

○ 総括的意見について

横 江 信 一 氏

今回の点検評価の12の事業では、学校教育課で取り組んでいる内容が12項目のうち7項目で多かったのですが、実は、学校教育課だけでなく、生涯学習課や学校安全推進課などとの連携や他の部署も含めて連携をどう図っていくかということが、子どもたちのより良い環境づくりにつながるものと考えます。

その中で、学び続ける子どもたちの育成を目指した場合、東日本大震災から12年の歳月を経過したという点と新型コロナウイルスが数年にわたって、いろいろな閉塞感の中で教育活動が制限されてきたことは、事業内容にも様々な影響があったことが理解できます。

今後、少子高齢化に歯止めがかからない中で超スマート社会と言われる Society5.0 の実現に向けた子どもたちの学びのルールづくりというところも、これから、重要になってくるかと思えます。また、VUCAの時代と言われる不確実で将来の予測が困難になっている中で、子どもたちに確かな学力を身に付けさせていく取組が一層大事になってきますが、何よりも数値化できない学力として基本的な人格形成の土台となる非認知能力を育むことは、これからの時代を生きるうえで大切な評価の要素になります。

その一方で、いじめ、不登校に歯止めがかからないことも一つの大きな課題でもあります。これについては、家庭、あるいは、地域社会のあり方をもう一度見直していったときに、学校と地域をつないでいくために様々な事業を進めていくところで見えなくなってきたところもあるかと思えます。例えば、各地区の子ども会や子ども会の育成会の他にジュニアリーダーなど参加者の割合が減少し、活動が少なくなり地域の子どもの連帯感や親同士のコミュニケーションにも影響があるのではないのでしょうか。親と子どもとの「縦の関係」でもない、同級生同士の「横の関係」でもない、異年齢の人間関係づくりによる「斜めの関係」づくりが、子どもたちにとってのロールモデルを築き上げていくという意味では、大事な視点になります。これからは、学校教育と生涯教育が両輪になって安心して学び続ける子どもたちを育てることが大切だと思えます。そして、魅力ある、行きたくなる学校づくりにしていくことが不登校の抑止力やいじめ防止にもつながり、安心して学ぶ環境づくりになるものと考えます。

このような背景の中で、「コミュニティ・スクール推進事業」は、地域に応じた適正な規模のもと「小・中学校再編事業」とも関連があり、これからの時代を生き抜く子どもたちを育てるための小・中学校の連携した教育活動が確かな学力向上推進にも深く関わっているものと考えます。

今後、少子化に歯止めがかからない中で、石巻市の教育を取り巻く環境も変化していくことが予想されます。今回の12の事業は、こうした変化を踏まえた上で、次年度も、「豊かな心を育み いのちを未来につなぐまち いしのまき」の基本理念のもと、次世代を担う人材を育て、誰もが生きがいをもって学習し、活動できるまちづくりを目指して教育行政がより一層充実することを心から期待しています。

今回、初めて参加させていただいて感じたところも含めてですが、各事業の点検及び評価を行うときの、ねらいの明確化とどんなゴールを目指すのかが、具体的に決まっていると、より点検評価がしやすいのではないのかと思います。それが明確になっていれば、それをもとにして、その迫り方を具体的に考えていくわけなので、改めて、その事業の最終ゴール地点、最終的な姿を常にきちんと捉えて、常に意識しながら取り組んでいくことが、大切になってくるのかなと思いました。

達成率など数値にどうしても惑わされてしまう、そして、事業のねらいとかが見えなくなってしまう、本当に本質は何なのか、数値は果たして今回の事業の全てを言い当てているのかというところではない、裏側の部分と言いますか、本当に具体的な動きの部分が見えるような評価になるといいのかと思います。学校でもよく、市役所でもそうですが、職員評価をされているときに、ゴール地点を見据えた取組が明確でないと、曖昧になってしまうのかなと思うところがあります。改めて、PDCAの流れをしっかりと押さえた事業推進なり、評価というのを進める必要があるのかなと思ったところです。

また、各課、それから外部団体との横のつながりというのが、改めて必要なのかなと思うところです。各課で、自分の事業というのが、自分だけになってしまう部分があるので、横とどうつながっていくのか、そして、どう活用していくのかというところが、改めて必要になってくるのか、大切になってくるのかと思います。

私も今回、お話をさせていただいたように、学校教育課と子ども保育課の連携が、すごく薄いわけです。それによって、幼稚園教育と保育所との連携が、なかなかできない、それが小学校にうまくスライドできない部分が多々あるのかなと、そういう面では、子ども家庭庁ができたときに期待はしたところですが、幼稚園は文部科学省のままなので、せめて、石巻市内の中でだけでも、各課の横の連携を濃密にした上での施策を是非展開していただきたいと思っています。

根本は、石巻市の教育委員会として、生涯学習課として、どういう石巻の子どもを育てるのかということが、明確にしないとだめなのかと。今、一般的に言われる学力向上ということの中で、石巻の子どもは、こういう子どもの姿なんだと、その姿は、やっぱり明確にして、そのために各課の事業が、どう取り組んでいくかということが、枝分かれしていくということがないと、本当に全部の縦割りだけの形になってしまうおそれがあるのかと思います。

それから、民間委託とか、外部団体との協力というのは、すごく大切な状態に今なってきているのかと思います。行政だけではなかなかできない部分が多々あるので、むしろ、それをうまく活用するというか、もうできないところはできないと手を上げて、むしろ、外部に助けを求めながら、いい連携ができる、そういう中で、石巻の子どもたちを育てていくというか、本当に私たちが石巻の子どもをこのように育てていくんだというところの意識を全部で共有することが改めて必要なのかなと思ったところです。

吉 田 和 美 氏

第2期石巻市教育振興基本計画実施計画掲載事業は118にもわたり、子どもたちが安心して学校生活に臨めるように、細やかに配慮を重ねていただきまして、改めて、先生方の日々の御配慮に一保護者として感謝申し上げます。

コロナ禍の影響が大きかった期間を経て、子どもたちの学校生活にも、様々な影響があったと思います。子どもたちの育ちにとって、とても貴重なこの子ども期の活動が制約されたことによる弊害がもしかしたら、この後に見えてくるかもしれませんが、その時々、子どもたちの課題に向き合っていただき、一緒に問題解決につなげてほしいと考えております。

また、取り組まれている事業が、多岐にわたり、非常に複雑化しているようにも見えました。どの事業も目的、成果が問われ、工夫しながら取り組んでいただいているとは思いますが、学校教育というのは勉強だけに限ったものではなく、子どもたちの内面から湧き出る興味、関心に勝る学習はないのではないかなと感じています。

私自身が育った時代と、今の子どもたちの環境は全く違っています。今を生きる子どもたちの生きづらさ、難しい問題がたくさん降ってくる状況を、子どもたちの視点に立って理解していかなければならないこともたくさんあるかと思えます。また、子どもたちが学校の主役であるとは思っているのですが、今回の事業報告において、子どもたちの意見が反映されているところがあまり見られなかったことが少し気になります。現在の学校教育が大人主導になっている状況から、今後は子どもたちの意見を取り入れて、学校運営がなされていくように変化していくことが、これからの子どもたちの学習にとって必要になってくるのではないかなと思っています。

今回、私も評価をさせていただくうえで、子どもたちに、学校の様子をいろいろ教えてもらいながら、資料をまとめてまいりました。子どもたちは、非常によく見えていますし、考えていますので、是非、子どもたちの意見をくみ取りながら事業をより良い方向に進めていただきたいです。石巻は、子どもの権利条例がいち早く施行された街でもあります。是非、子どもの視点を大切に、子どもたちが何を感じて、何を考えているのかというところに、今一度目を向けていただいて、子どもも、大人も一緒に学び合える社会実現に向けて、そして、子どもたちが希望を持てる未来のために、是非、教育委員会の皆様が中心となり、リーダーシップを取っていただいて、行政、民間、各課、部署の枠にとらわれずに、連携推進できるよう御尽力いただければと思っています。

○ 事業ごとの意見について

点検及び評価の対象事業ごとに記載

石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	1	事業名	情報教育環境整備事業				
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	1 安全に安心して学べる教育環境整備の推進					
	基本施策	1 教育環境の充実と学校施設整備の充実					
	施策の展開	4 ICT環境の充実					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち					
	基本施策	安全に安心して学ぶための教育環境整備の推進					
	施策の展開	充実した教育を行うための環境を整備する					
	事業名	情報教育環境整備事業					
担当課	学校管理課	事業期間	H20	～	概要	継続	
事業概要（目的）							
国際化、高度情報化、技術革新等社会情勢の変化に対応した情報教育環境を計画的に整備する。 市内小中高等学校の教育用コンピュータや周辺機器の更新を図る。							
事業効果							
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒がICTの活用方法に慣れ親しみ、習熟して、主体的に活用できるよう情報活用能力の育成が図られる。 ・情報社会に参画する態度が育成され、情報モラル教育の推進が図られる。 ・各教科等においてデジタルコンテンツを活用し、わかりやすい授業が実現できる。 							
現状と課題							
情報化社会に必要な知識を習得するため、これからの学習活動を支えるICT機器等[大型提示装置（電子黒板等）、学習者用コンピュータ（タブレット）等]や無線LAN環境の整備を進めてきたが、文部科学省が推奨する「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画（2018～2022年度）」及び「GIGAスクール構想」に基づき、より一層整備を進める必要がある。							
事業の実施内容		年度別事業計画					
		R4	R5	R6	R7	R8	
大型提示装置及び周辺機器の整備、更新		拡充	拡充	拡充	実施	実施	
教育用タブレット端末の更新					実施		
指 標 名		単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値
活動指標							
大型提示装置新規整備学校数		校	8	9	12	6	6
成果指標							
大型提示装置整備学校数の割合		%	59.6	76.9	100.0	100.0	100.0
備考							

実施状況及び評価(CHECK)

令和4年度の事業実施状況	平成30年度から各普通教室に1台の大型提示装置を整備する方針で開始している。令和4年度は旧市内小学校8校(計112台)へ整備することができた。
--------------	---

目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	大型提示装置新規整備学校数						評価
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	
		目標値	校	8	9	12	6	6	
		実績	校	8					
		達成率	%	100.0%					
	成果指標	指標名	大型提示装置整備学校数の割合(整備校数/全学校数)						評価
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	
		目標値	%	59.6	76.9	100.0	100.0	100.0	
		実績	%	59.6					
		達成率	%	100.0%					

【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B
 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D
 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F

【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載	総合評価
	A

取組の成果及び評価の理由	計画通りに整備完了した。
--------------	--------------

課題・改善(ACTION)

事業を進める上での課題	各学校の普通学級に一台ずつ電子黒板を整備したため、保守管理対象となる機器が大幅に増加しており、現状の体制では整備機器の保守管理が困難な状態となる可能性がある。
今後の対応方針	整備機器の効率的な保守管理方法の検討を進め、必要に応じ保守管理体制の強化等を行っていく。
令和5年度の見込み	新規 継続 (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了

事業費(決算額)	年度	R4	R5	R6	R7	R8	
	金額(千円)	288,745					

学識経験者からの意見

【横江信一氏】

分かりやすい授業の実現や目標の達成に向けて適切に対応していますが、個別最適な学びという観点から、児童一人一人に応じた情報モラル教育も含めたICT機器の活用の仕方については、先生方に対しても指導が必要なことを含め、教育委員会として、各学校の実態を踏まえた対応をすることが今後の一つの課題になると思います。

また、予算的な面も含めて、全ての子どもたちが学びやすい環境づくりを計画的に進めていただきたいと思います。

さらに、各学校の進捗状況を把握し、フィードバックしながら、先進的な取組をしている学校については、情報を共有しながら、全体のレベルアップに努めていくことが、石巻市の教育の質の向上につながると思います。

【橋本恵司氏】

目標設置数の8をクリアしたので、評価もAですが、保守、点検、整備についての評価と改善を検討してほしいと思います。併せて、今後、増加する機器に対応した人員確保をお願いしたいと思います。

2点目として、デジタル教科書の採用をどうしていくのが今後の課題となってくるので、これについても検討してほしいと思います。また、教職員、事務職員にも、ICTに長けた者がいると思うので、それらの人材の発掘と活用も必要であると思います。さらには、生成AIの導入等を見据えた長期的な計画も必要になるかと思っています。

さらには、幼児期の教育を考えると、幼稚園、こども園にも同じように教育機器の整備・充実を図っていくと良いのではないかと思います。

【吉田和美氏】

計画どおりにタブレットが配置され、全ての普通教室に電子黒板が設置されたことは評価でき、新しい時代にあった学習方法に役立つものにつながると感じています。

システム的な問題についてもお伺いし、専門的な知識が必要な事業ではありますが、費用の面で業務委託は難しい点において、今後、先生方の御負担が大きくなるのではないかと懸念しております。機械は遅かれ早かれ不具合が出てきますので、各学校にデジタル担当の先生の配置、マニュアル化が必要なのか、今後どのような対策が必要なのか、体制整備も含め検討していただきたいと思います。

石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	2	事業名	奨学金貸与事業				
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	1 安全に安心して学べる教育環境整備の推進					
	基本施策	3 学習機会の平等					
	施策の展開	1 就学支援の充実					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち					
	基本施策	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	施策の展開	3 有能な人材を育成支援する					
	事業名	奨学金貸与事業					
担当課	学校教育課	事業期間	～		摘要	継続	
事業概要（目的）							
<p>石巻市奨学金貸与条例に基づき、経済的理由により修学困難な生徒及び学生に学資を貸与し、有能な人材の育成を図る。</p>							
事業効果							
<p>修学困難な生徒及び学生に教育の機会を与えている。</p>							
現状と課題							
<p>奨学金貸与事業については、国や他団体等でも実施しており、応募者数が年々減少しているため、利用者の増加を図る方策を検討していく必要がある。</p>							
事業の実施内容		年度別事業計画					
		R4	R5	R6	R7	R8	
奨学金の貸与		実施				→	
指 標 名		単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値
活動指標							
奨学生応募人数		人	20	22	25	27	30
成果指標							
奨学金貸与者のうち、進級又は修了（卒業）した者の割合		%	100	100	100	100	100
備考							

実施状況及び評価(CHECK)										
令和4年度の事業実施状況		【第1次募集】 申請書受付：令和4年2月1日～3月25日 奨学生選考委員会：令和4年4月15日開催 応募者：7名（採用7名） 【第2次募集】 申請書受付：令和4年6月中旬～8月5日 奨学生選考委員会：令和4年9月22日 応募者：1名（採用1名）								
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	奨学生応募人数						D	
			単位	R4	R5	R6	R7	R8		評価
		目標値	人	20	22	25	27	30		
		実績	人	8						
		達成率	%	40.0%						
	成果指標	指標名	奨学金貸与者のうち、進級又は修了（卒業）した者の割合						B	
			単位	R4	R5	R6	R7	R8		評価
		目標値	%	100	100	100	100	100		
		実績	%	93.5						
		達成率	%	93.5%						
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F										
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載							総合評価			
							C			
取組の成果及び評価の理由		貸与者31名中、29名が進級又は卒業した。中退した2名については、身体状況の悪化及び大学を中退し専門学校で学び直す者であった。新規採用数は8名であり目標値に届かなかったものの、学資の貸与が必要な学生に対し支援することができたと考える。								
課題・改善(ACTION)										
事業を進める上での課題		国の施策である「高等教育の修学支援新制度」により、給付型奨学金や大学等の授業料の免除・減免制度の活用により、貸与型奨学生への志願者は減少傾向にある。国等の支援制度の動向を踏まえながら、学生のニーズに合った支援策を検討していく必要がある。								
今後の対応方針		令和5年度より、進学先が決定していない状況での応募が可能な予約採用を実施する。広く利用者に周知を図り、奨学金の活用機会を提供していく。								
令和5年度の見込み		新規 継続 (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了								
事業費（決算額）		年度	R4	R5	R6	R7	R8			
		金額（千円）	19,639							

<p>学識経験者からの意見</p>	<p>【横江信一氏】</p> <p>今後も継続していただきたい事業ですが、さらなる詳しい内容を周知することが、応募者数が減少していることへの歯止めにつながると思います。</p> <p>併せて、子どもの減少が続く中で、高等学校について、石巻市から仙台市や私立の高等学校など市外の高等学校に離れていく状況が続いていることも踏まえ、石巻市で働き続けることを奨学金貸与の返納免除にするなど、石巻市の中で学ぶ子どもに対する奨学金のあり方という観点も検討いただきたいと思います。</p> <p>この事業については、特色ある、そして、継続的な内容としては、高い評価を持っています。</p> <p>【橋本恵司氏】</p> <p>目標 20 人に対して 8 人という実績を踏まえ、奨学金制度の周知方法の改善、早期からの対応などの検討を行っていることは評価できます。</p> <p>年次の目標人数が増えているが、予算面の保障はどうなっているのか確認したいと思っています。</p> <p>石巻市に 5 年間就職した場合には、奨学金の返済を一部免除するとか、そういう対応も検討しなければならないと思っています。</p> <p>教育委員会として、奨学金の周知徹底のために各学校を回り、説明するということも必要ではないかと思っています。</p> <p>【吉田和美氏】</p> <p>利用者数が目標人数に達していないのは、奨学金に頼らなくても良いのか、ほかの奨学金を利用しているのか、情報が行き届いてなく、利用したくても利用できずにいるのか、資料からは読み取れませんでした。</p> <p>しかし、子育て世帯の金銭的な負担は非常に大きく、貧困に当てはまる家庭も少なくないと認識しています。</p> <p>ホームページを拝見しましたが、利用しない理由として考えられることは、申請の時期や手続のプロセスなども分かりやすく伝えていく必要があると感じました。特に、市民にとって行政の窓口は、ハードルが高いです。この制度を理解し、情報周知できる人が養育者となつたりをもっていないこと、ホームページやチラシ配布だけでは、情報を受け取れない人も多いので、福祉関係との連携も必要になると思います。奨学金貸与者数を成果とする前に、ニーズをどのように把握するか方向性を見出してほしい。</p> <p>子どもの進学を見据えた親、当事者の視点として、借入れできる金額が少ないと感じる方も多いのではないかと。</p> <p>金額の見直しを含め、さらに検討を重ねていただきたいと思います。</p>
-------------------	--

石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	3	事業名	小・中学校再編事業				
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	1 安全に安心して学べる教育環境整備の推進					
	基本施策	5 小・中学校の適正規模と適正配置の実現					
	施策の展開	1 学校規模の適正化の実現					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標						
	基本施策						
	施策の展開						
	事業名						
担当課	学校再編推進室	事業期間	R4	～	摘要	継続	
事業概要（目的）							
保護者説明会等を通して、地域住民との合意形成を丁寧に行い、学校の適正規模・適正配置を目的とする石巻市立小・中学校学区再編計画に対する理解を頂きながら、計画を推進する。							
事業効果							
学校の適正規模を実現することにより、児童生徒が集団の中で学校生活を送ることによって、教育環境の充実により学力向上に寄与するとともに、切磋琢磨することを通じて社会性や協調性を身に付けることができる。 また、「石巻市行財政運営プラン」に掲げる公共施設の適正な管理・運営の実現に寄与する。							
現状と課題							
少子化及び人口減少の影響により、適正規模を下回る学校が市内全域で増加していることから、今後とも保護者等と懇談会等を開催し、学区再編計画を進めていかなければならないが、平成29年度に実施した、学区再編計画（素案）保護者説明会で提示したスケジュールより、現状に遅れが見受けられることから、スケジュールの見直し及び現状に見合った地区別計画の更新等が必要になっている。							
事業の実施内容		年度別事業計画					
		R4	R5	R6	R7	R8	
石巻市立小・中学校学区再編計画に基づく、再編事業の実現		実施	→			R10まで	
指 標 名		単 位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値
活動指標		回	22	24	26	28	30
学区再編対象校を対象とした保護者等との懇談・説明会の実施回数							
成果指標		%	3.9	10.8	17.6	21.6	25.5
学区再編計画に基づく学校規模適正化が図られた学校の割合							
備考							

実施状況及び評価(CHECK)									
令和4年度の事業実施状況		学区再編の検討の対象となる各小・中学校を訪問し、学区再編計画を説明した。 学区再編計画に関する保護者等との懇談・説明会として延べ28回（石巻中学校学区3回、河北地区7回、河南地区7回、桃生地区11回）実施した。 また、東浜小を万石浦小に荻浜中を万石浦中にそれぞれ統合し、閉校式を実施した。							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	学区再編対象校を対象とした保護者等との懇談・説明会の実施回数						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	回	22	24	26	28	30	A
		実績	回	28					
		達成率	%	127.3%					
	成果指標	指標名	学区再編計画に基づく学校規模適正化が図られた学校の割合						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	3.9	10.8	17.6	21.6	25.5	A
		実績	%	3.9					
		達成率	%	100.0%					
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載							総合評価		
							A		
取組の成果及び評価の理由		活動指標は、目標値22回に対し、28回の説明会を行い100%以上の達成率となった。成果指標に関しては、51校であった小中学校から2校の統合を達成し、目標値3.9%を達成した。よって、総合評価Aである。							
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題		引き続き、懇談会等を開催しながら、保護者及び地域住民と今後の学校の在り方等について合意形成を図ることとしているが、学校は児童生徒にとっての「教育の場」と、地域にとっての「コミュニティのシンボル」の2つの側面を有しており、立場の違う保護者と地域住民から共通理解を得ることの難しさが挙げられる。							
今後の対応方針		令和5年度から学校再編推進室が創設されることから、引き続き保護者等への懇談・説明会を実施し、必要な情報提供等を通して、統廃合を含めた今後の学校の在り方等について、合意形成を図り、小・中学校の学区再編の実現に取り組む。							
令和5年度の見込み		新規 継続 (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了							
事業費(決算額)		年度	R4	R5	R6	R7	R8		
		金額(千円)	3,987						

<p>学識経験者からの意見</p>	<p>【横江信一氏】</p> <p>喫緊の課題として、市民全体が学校再編の意識を持っていくことが根底になければならないと思っています。保護者説明会を核にしていると進まない面も間違いなくあります。適切な集団の中で、子どもたちの持っている可能性や良さをさらに引き出していくことを考えた場合に、多様な価値観に出会って、それから学ぶというところが、これからの時代にとって何よりも大切ではないのかと思います。</p> <p>そのためにも、学校運営協議会、コミュニティ・スクールが進んできているので、そのタイミングを逃さないで、学校運営協議会の会長も含めて、地域の方々への働きかけが必要になってくるのではないかと思います。</p> <p>それらを踏まえて、学校の規模のバランスがかなり変化しているので、適正な学校規模、適正な配置、学区の見直しも含め、さらに市民に浸透できるような対応、手立てを検討していただきたいと思っています。</p> <p>【橋本恵司氏】</p> <p>合意形成を丁寧に行うためのステップは、難しいものがあると思います。適正規模だけの推進では、立ち行かなくなる部分もあるので、学区再編も含めた検討が必要な時期になってきていると思います。</p> <p>それから、年次ごとの保護者説明会の実施回数と適正化が図られた学校の割合の数値の因果関係が、これで果たしているのか疑問があります。</p> <p>さらに、スケジュールが遅れてきている原因等も含めて、検討しながら、新たな組織が立ち上がったので、有効的な運営を行うことが必要と思っています。</p> <p>幼稚園・保育所の統合問題も、こども保育課を巻き込んで、学校再編推進室で大きく関わってほしいと思います。</p> <p>【吉田和美氏】</p> <p>説明会を複数回開催したことで総合評価がAとなったことは評価します。別紙資料も確認させていただき、子どもの減少が計画作成時よりも速いスピードで進んでおり、早急に方向性を見出す必要があるようにも見えますが、地域理解のもと、丁寧に対応していただきたいとも感じました。</p> <p>今年度から学校再編推進室が創設されましたが、義務教育期間中の子どもたちの視点で、教育活動に何が一番大切なのか、これからの地域の将来像、明るい未来を思い描けるような前向きな御提案を作成していただき、子どもたちや地域にとって、より良い話し合いが持てるよう引き続き御尽力いただきたいと思っています。</p> <p>成果を数値化するのは難しい事業かと思いますが、人数割や地区割り振りの見直しも視野に入れ、引き続き対応していただきたいと思っています。</p>
-------------------	---

石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	4	事業名	学校わくわくプラン事業				
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	基本施策	1 確かな学力の向上					
	施策の展開	1 基礎・基本の確実な定着					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち					
	基本施策	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	施策の展開	1 学校教育の充実を図る					
	事業名	学校わくわくプラン事業					
担当課	学校教育課	事業期間	R3	～	摘要	継続	
事業概要（目的）							
児童生徒の主体的に生きる力を育成するために、学校と家庭・地域が連携・協働し、「わくわく感」の持てる取組を運営する。							
事業効果							
児童生徒が、自己に内在しているよさや可能性に自ら気づき、引き出し、伸ばすと同時に、社会生活で必要となる社会的資質・能力を身につけることが期待される。							
現状と課題							
<p>【現状】これまで、子どもたちの学習や活動意欲を高めるため、教員の指導力向上研修を積み重ねてきた。令和4年度「全国学力・学習状況調査」での「学校生活についてのアンケート」では、「学校が楽しいですか」の質問において、本市の肯定的な回答は91.7%である。また、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問において、本市の肯定的な回答は全国や県を上回っている。</p> <p>【課題】令和4年度「全国学力・学習状況調査」では、「自分には、よいところがあると思いますか」の質問において、肯定的な回答は全国や県を下回っている。自己に内在しているよさに気づき、自信を育む取組が重要である。</p>							
事業の実施内容		年度別事業計画					
		R4	R5	R6	R7	R8	
学校と家庭・地域が連携した事業		実施				→	
推進地区による取組		実施				→	
指 標 名		単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値
活動指標		%	20	40	60	80	100
子どもたちの学習や活動の成果を発表する場への参加校率							
成果指標		%	94	95	96	97	98
学校が楽しいと感じている児童生徒の割合（単年）（上段：小学生、下段：中学生）			88	89	90	91	92
備考	総合計画の指標・目標値とほぼ同じだが表示の仕方が違う（KPI）						

実施状況及び評価(CHECK)									
令和4年度の事業実施状況		<p>【子どもたちの学習の成果の発表の場】1か月に渡った「タブドリ祭り」</p> <p>【学校と家庭・地域の連携】参集しての「学校わくわくプラン実践報告会」の開催</p> <p>【推進地区での取組】各地区の教育課題解決のための自主企画による講演会等の開催</p>							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	子どもたちの学習や活動の成果を発表する場への参加校率						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	20	40	60	80	100	A
		実績	%	100					
		達成率	%	500.0%					
	成果指標	指標名	学校が楽しいと感じている児童生徒の割合（単年）（上段：小学生、下段：中学生）						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	94 88	95 89	96 90	97 91	98 92	B
		実績	%	92 90					
		達成率	%	97.8% 102.3%					
<p>【事業評価基準】達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B</p> <p>達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D</p> <p>達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F</p>									
<p>【事業全体の評価】</p> <p>※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載</p>							総合評価		
							B		
取組の成果及び評価の理由		<p>令和4年4月に導入したタブレットドリルの活用が促進されたり、児童生徒の「学校」に対する肯定的な回答が増えている反面、不登校児童生徒数は増加しており、更なる事業実施へ向けた工夫・改善が必要である。</p>							
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題		<p>学校の教育活動の範囲を越えた「自信」を育む重要性を意識し、更に多くの児童生徒が「学ぶ土台」として意欲を高めたり、自信を高めたりできるような事業内容の工夫・改善が必要である。</p>							
今後の対応方針		<p>通常の教育活動において何か事前準備をして一方的に発表するような形式ではなく、参加者全員が双方向で関わりを持ち、新しいものを生み出すような事業を企画・運営する方向で考えたい。</p>							
令和5年度の見込み		<p>新規 <u>継続</u> (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了</p>							
事業費（決算額）		年度	R4	R5	R6	R7	R8		
		金額（千円）	1,530						

【横江信一氏】

学校わくわくプラン事業は、充実した内容と考えています。さらに充実していくためには、学校と家庭・地域が連携・協働の視点から地域も巻き込みながら、その地域の特色を生かしたところでの、学校のわくわく感が一つのプランになっていくのではないかと。これが、石巻市全体の特色ある教育、さらには、石巻市の強みになるのではないかと思います。

さらに、子どもの人数がだいぶ少なくなってきて、地域の異年齢で関わる活動がなくなってきていますが、異年齢で関わる場所にも、わくわく感の醍醐味が間違いなくあるので、そのロールモデルを作りながら、石巻市の中で学び続ける、そして、社会を生き抜く力を身に付ける子どもに成長するのではないかと考えています。

ただ、その成果指標について、精査し、例えば、全国学力学習状況調査の観点からの一つの目標値、そして、成果達成というところがありますが、この数値では表せないところについて、各学校の中で、成果につながるキーワードになるものはいっぱいあるので、それをコミュニティ・スクールも含めたところで、各地域の中でわくわくプランがどのように達成されたか、成果につながるものが全体につながればいいのかと思います。

【橋本恵司氏】

わくわくプランのゴールが、全国学力学習状況調査の意識調査の数値で評価するのが気になりました。学校でできること、地域でできることなど、どこにスポットを当てて、教育委員会として取り組もうとしているのか、より明確になると良いと思います。

ダブドリ祭りも好評なので、むしろ、このようなものの成果を数値化する方が、全国学力学習状況調査の意識調査で結果を示すよりは、良いのかと思います。

11月に行われるダンサーを呼んでのイベントについても期待が持てるので、子どもたちが今、何を望んでいるのか、もう一度、把握しながら、プランとしてどう切り込んでいくか検討していけると良いと思います。

【吉田和美氏】

コロナ禍において学校行事が行われぬ場面も多い中、多くの学校がこの事業イベントに参加したこと、そして、子どもたちが頑張って取り組む過程を認められる機会になったのであれば、高く評価できると思います。

しかしながら、子どもたちは、日常、評価されることが増えていて、怒られたり、理解してもらえない、うまくできないことに自信をなくしたりと、心を痛めています。みんなと同じことができることが当たり前なことではないし、頑張ってきた過程に気付き合えるように、ときには、先生と子どもたちも立場にこだわらずに、信頼関係を築いていけるような時間的な余裕を捻出できればと感じました。特に、集団生活に入り始める低学年の時期に、お互いを認め合うということを軸において、できること、できないことの評価ではなくて、子どもたちがお互いを理解し、少しでも楽しく、笑顔で過ごせる時間が増えることを期待しています。

石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	5	事業名	学力向上推進事業（家庭学習の啓発）				
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	基本施策	1 確かな学力の向上					
	施策の展開	3 学習習慣や生活習慣の定着					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち					
	基本施策	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	施策の展開	1 学校教育の充実を図る					
	事業名	学力向上推進事業					
担当課	学校教育課	事業期間	R4	～	概要	継続	
事業概要（目的）							
子どもたちの学びに向かう力の育成と基礎・基本の定着のために、各家庭において学習意欲を喚起し、家庭学習の習慣化を図る。							
事業効果							
各家庭に、「石巻市学力向上プラン（保護者用リーフレット）」を配布することにより、家庭学習の習慣化を啓発する。また、標準学力調査等の分析結果（改善点や評価）を各家庭にも伝え、家庭学習に取り組む際に活用する。家庭との連携により、主体的に学習に取り組む児童生徒の育成が期待される。							
現状と課題							
全国学力・学習状況調査の結果を基に課題を明らかにし、改善の手立てを講じた結果を、教育相談を通じて家庭にも伝え、家庭学習への啓発を促す。 市内全児童生徒を対象とした標準学力調査の実施・分析を行い、児童生徒一人一人の課題を明らかにし、個に応じた指導の充実を図るとともに、教育相談等を実施し、その結果を家庭学習にも生かしていく。							
事業の実施内容		年度別事業計画					
		R4	R5	R6	R7	R8	
標準学力調査の分析・考察・課題把握		実施				▶	
学校と家庭が連携した事業		実施				▶	
指 標 名		単 位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値
活動指標		%	74	75	76	77	78
自分で計画を立てて家で勉強している児童生徒の割合 （上段：小学生、下段：中学生）			65	66	67	68	69
成果指標		%	58	59	60	61	62
標準学力調査（国・算・数）の後期の達成率の平均値 （上段：小学生、下段：中学生）			54	55	56	57	58
備考							

実施状況及び評価(CHECK)									
令和4年度の事業実施状況		各家庭に、「石巻市学力向上プラン（保護者用リーフレット）」を配布した。 令和4年度から令和6年度の期間は、「学力」に対する意識改革をテーマとしているが、令和4年度は、「基本的な生活習慣の確立！声掛けの工夫でやる気アップ」とした内容でリーフレットを配布している。また、標準学力調査等の分析結果（改善点や評価）を活用し、市内小・中学校全校において、保護者との教育面談を実施した。							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	自分で計画を立てて家で勉強している児童生徒の割合 (上段：小学生、下段：中学生)						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	74 65	75 66	76 67	77 68	78 69	A
		実績	%	74 65					
		達成率	%	100.0% 100.0%					
	達成率	%	100.0% 100.0%						
	成果指標	指標名	標準学力調査（国・算・数）の後期の達成率の平均値 (上段：小学生、下段：中学生)						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	58 54	59 55	60 56	61 57	62 58	B
		実績	%	53 62					
達成率		%	91.4% 114.8%						
達成率	%	91.4% 114.8%							
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載							総合評価		
							B		
取組の成果及び評価の理由		市内小・中学校全校において、夏季に教育面談を実施したことで、家庭学習の啓発ができた。「活動指標」においては、小・中ともに達成率100%であったが、「成果指標」において、中学3年生は達成率116.7%であったものの、小学校6年生の達成率は上に記載したとおりであった。							
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題		更に家庭学習を習慣化させるために、家庭の協力が必要である。どのような家庭学習が望ましいか、どのような家庭の関わりが好ましいかを周知していくことが課題となる。							
今後の対応方針		本年度も教育面談の実施、新たな内容のリーフレットを作成し配布することで、家庭との連携を深めていく。主体的に学習に取り組む児童生徒を育てるため、家庭での関わり方を具体的に示し、啓発を行っていく。							
令和5年度の見込み		新規 継続 (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了							
事業費（決算額）		年度	R4	R5	R6	R7	R8		
		金額（千円）	0						

学識経験者からの意見

【横江信一氏】

取り組んでいる内容については、高い評価を持っています。

石巻市としての保護者用のリーフレットが家庭へ浸透することによって、どんどん広まっていくのではないかなと思っています。何ができるかだけでなく、どのように学ぶというところをさらに重点化していくことは、大事ではないかと思っています。

活動指標、さらに成果指標ですと、例えば、家庭で勉強している児童生徒の割合、何をもち勉強なのか、各学校の各教科のみならず、総合的な学習の時間を含めた学校としての取組の中から、見えてくるものもあるのではないかと思います。それを、教育委員会として集約したところに、市の施策の焦点化が図られるのではないかと思います。

さらに、標準学力調査についても、市独自の取組として、期待していますが、言語能力のみならず、情報活用能力だったり、問題解決能力であったり、そういう視点からも、分析していくと、石巻市の子どもたち一人一人の持っている可能性を引き出していく視点から確かな学力向上につなげていただきたいと思っています。

【橋本恵司氏】

活動指標の目標値の設定がこれでいいのか疑問があります。年次ごとに1ポイントずつ増加していく計画になっていますが、達成したのであれば、もっと高い部分での目標設定になるのではないかと思います。

令和5年度からの学力に対する意識改善、改革をテーマにする取組に期待したいと思っています。

成果指標の学力調査後期の達成率の平均値、目標値は、どこからこの数値が出てくるのかも明記すると良いと思います。

家庭との面談を市内全体で行えたことは、大きな成果だったと思います。児童クラブが大きなウエイトを占めていて、児童クラブで宿題をすることが定着してきましたが、一方で、児童クラブの運営が民間に委託されたことによって、宿題をしない児童クラブが出てきて、保護者とトラブルになっているような事例もあるやに聞いたので、児童クラブとの連携も大きな課題になってくるかなと思います。

【吉田和美氏】

わくわくプラン事業との両輪になる位置付けとの御説明いただき、子どもたちの前向きな取り組みにつながる事業だと理解しました。家庭での過ごし方や子どもへの動機付けが、学力向上にとって家庭との関わりはとても重要になると強く感じています。

子ども一人一人、それぞれペースに合う方法でなければ、学習の効果は見えずらく、「勉強しなさい」の保護者の声掛けが、家庭内での衝突の原因となり、逆に学習への意欲につながらなくなる可能性もあり非常に難しい課題だと感じています。リーフレット配布が効果的かは疑問が残ります。そもそも、学力向上を課題と捉えていない家庭も多いのではないかなと感じています。勉強よりも楽しく学校に通えれば、それでいいと考えている家庭もあります。親として、毎日宿題を

出してもらえただけでもありがたいです。学習の理解が進むことで、意欲の向上につながると思うので、家庭では、学校で学んだことなどを話せるというコミュニケーションが取れるところを目指していただけたらいいのではないかと感じました。

先生方の負担は増えるかもしれませんが、テスト前は自発的に学習に取り組めますのでテストの回数を見直しを検討していただければと思いました。

石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	6	事業名	運動能力向上推進事業				
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	基本施策	3 健やかな体の育成					
	施策の展開	1 体力・運動能力の向上					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標						
	基本施策						
	施策の展開						
	事業名						
担当課	学校教育課	事業期間	H20	～	摘要	継続	
事業概要（目的）							
<p>体を動かすことを「楽しい」と感じるにより、自発的に運動しようとするきっかけづくりを行い、運動することに対する意識を変えとともに、児童の基礎体力の向上を図る。</p>							
事業効果							
<p>体力・運動能力向上に向けた取組により、運動に親しみながら、目標に向かって継続的に努力しようとする児童を育成するとともに、児童の基礎体力の向上を図ることができる。</p>							
現状と課題							
<p>生活環境の変化やスクールバスの利用に伴う徒歩通学児童の減少により、体力低下や肥満傾向の割合の増加が懸念されている。各学校においては、それぞれの実態に応じたアクションプランを作成し、体力・運動能力向上策を講じている。</p>							
事業の実施内容		年度別事業計画					
		R4	R5	R6	R7	R8	
体力・運動能力向上に向けた継続的な取組の推進		実施				→	
指標名		単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値
活動指標		時間 (分)	54	55	56	57	58
体育以外で1日あたり運動・スポーツする時間（上段：小学5年生、下段：中学2年生）			105	106	107	108	109
成果指標		点	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9
全国体力・運動能力テストの全国平均値との差（上段：小学5年生、下段：中学2年生）			△ 0.3	△ 0.2	△ 0.1	0.0	0.1
備考							

実施状況及び評価(CHECK)									
令和4年度の事業実施状況		各校で児童生徒の実態に応じた体力・運動能力向上に関する重点目標を定め、体育の時間や業間の時間等を活用した継続的かつ創意工夫を行った取組が見られた。その取組の状況をしない各校に情報として提供し、児童生徒の体力向上に向けた教職員の意識高揚につなげている。							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	体育以外で1日あたり運動・スポーツする時間（上段：小学5年生、下段：中学2年生）						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	分	54 105	55 106	56 107	57 108	58 109	B
		実績	分	50.5 104.6					
		達成率	%	93.5% 99.6%					
	成果指標	指標名	全国体力・運動能力テストにおける全国平均値との差を加えた目標値に対する実数の割合（上段：小学5年生、下段：中学2年生）						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	100 100	100 100	100 100	100 100	100 100	B
		実績	%	97.7% 96.9%					
		達成率	%	97.7% 96.9%					
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載							総合評価		
							B		
取組の成果及び評価の理由		コロナ禍等の影響があり、体力低下の傾向が続いている。小学校5年女子が県の平均値を上回ったものの、より創意工夫をしながら運動量の確保や体育の授業の充実等に努める必要がある。今後も各校において継続的に体力向上策を講じていく。							
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題		新型コロナウイルス感染症により行動制限が長期間にわたったこともあり、児童生徒の体力や運動能力を向上させる活動を実施しにくい状況があった。感染防止の必要性はあるが、従前のような活動体制を行えるように児童生徒へ運動の場と時間を確保していくことが課題である。							
今後の対応方針		各学校に対し、新型コロナウイルス感染防止対策を行った上で、児童生徒の運動の機会を十分に確保するように工夫し、その創意工夫を各校に共有するように積極的に働きかけていく。また、体力向上プランを提示し、体力向上の活動を推進する。							
令和5年度の見込み		新規 (継続) (拡充) (縮小) 休止 廃止 期間満了による終了							
事業費（決算額）		年度	R4	R5	R6	R7	R8		
		金額（千円）	0						

【横江信一氏】

東日本大震災から12年の歳月が経過し、遊ぶ場所、活動する場所の制限、さらに、新型コロナウイルス感染による制限の中での体力低下、肥満傾向が顕著になっている中で、その向上に向け継続して取り組んでいただきたいと思います。その中で、運動能力と体力は、学力とも相関関係にあり、事業目標の中に「楽しいと感じること」がありますが、その楽しさをどのように捉えるかは、各学校から家庭への働きかけになるかと思えます。具体的な数値の向上が目標ではありますが、継続することにより、乗り越えていく力であったり、粘り強さであったり、指導要領にはないから持久走大会をやらないという学校も出てきているかもしれませんが、その中で工夫し、地域で親子で走ったり、学校で子ども同士で走ったりしながら、自然環境にも触れ合い、学校行事とつなげていくという見直しをすることも必要ではないかと思えます。

一人一人が目標を設定して走るということ、そして、体力を向上させるということは、一人一人の目標設定を乗り越え、達成していくという喜びにもつながっていくことも大切ではないかと思えますので、継続して取り組んでいただきたいと思えます。

【橋本恵司氏】

予算0円で事業を推進することの難しさがあると思いつつも、そういう面では、各学校に任せざるを得ないところも実態としてはある中で、各学校、努力しながら成果を上げていると思えます。

コロナ禍を考えると、学校が運動能力にも危機感を感じて対応している姿は、様々な面で見られるので、97%の実績は評価できると思えます。楽しく運動できるような意欲付けを外部団体や大学の協力を得ながら、予算も絡む部分もありますが、模索していけると良いと思いました。

学校行事と絡めて運動の楽しさを改めて子どもたちに感じさせられるような工夫を、教育委員会も含めて声掛けをしながら進めていけるとより良いと思いました。

【吉田和美氏】

総合評価はBですが、石巻専修大学との連携や、先進的な研究との連携を模索しながら、予算のない中で事業推進に取り組んでいただいていることが理解できました。

体力低下の理由について、放課後児童クラブの利用、保護者の送迎によって登下校に歩くことをしない、歩く必要がない子どもたちが増えています。同時に外遊びの機会も減り、日常の中で体を動かす時間が減っています。研究結果では、幼児期に適切な運動経験を積むことが重要ということが分かっているので、就学前の早い段階から意識して、運動量を増やすことも必要と思えます。幼保・小連携推進事業と運動能力向上推進事業は、つながるべき事業になっていくと感じました。

また、栄養摂取の偏りと運動不足、体力不足は大きく関係しているので、健康であることの大切さを子どもたち自身が、きちんと理解して、学力向上プランに楽しく取り組めるよう体制が整うことに期待したいと思います。

石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	7	事業名	相談体制充実事業				
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	基本施策	6 不登校児童生徒対策の充実					
	施策の展開	1 不登校生徒児童を生まない校内体制づくり					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち					
	基本施策	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	施策の展開	1 学校教育の充実を図る					
	事業名	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー配置事業					
担当課	学校教育課	事業期間	H20	～	摘要	継続	
事業概要（目的）							
いじめ・不登校対策担任を中心とした不登校への対応・未然防止のための校内体制を整備するに当たり、スクールソーシャルワーカーが相談活動や関係機関との連携体制づくりにより支援を行う。							
事業効果							
<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制の確立、充実 ・児童生徒の不登校や問題行動等の未然防止、早期発見、早期対応 							
現状と課題							
児童生徒の諸問題について複雑化、深刻化しているため、今後も学校の教育相談体制、関係機関との連携体制の充実をますます図る必要がある。そのためにも、スクールソーシャルワーカーを増員することが望まれる。							
事業の実施内容		年度別事業計画					
		R4	R5	R6	R7	R8	
スクールソーシャルワーカーの配置		実施				▶	
スクールソーシャルワーカー研修会の実施		実施				▶	
指 標 名		単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値
活動指標							
スクールソーシャルワーカーの訪問回数 (延べ回数)		回	1,150	1,162	1,175	1,187	1,200
成果指標							
新規不登校出現率の全国平均値との差 (上段：小学生、下段：中学生)		%	△ 0.08	△ 0.06	△ 0.04	△ 0.02	0.00
			△ 2.02	△ 2.00	△ 1.80	△ 1.60	△ 1.40
備考							

実施状況及び評価(CHECK)

令和4年度の事業実施状況		【配置】 スクールソーシャルワーカー 7名（兼務により全校に配置） 【研修会の実施】 関係者会議4回 情報交換会3回 （うち2回は県のスクールソーシャルワーカースーパーバイザーを招致）							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	スクールソーシャルワーカーの訪問回数（延べ回数）						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	回	1,150	1,162	1,175	1,187	1,200	A
		実績	回	1,157					
		達成率	%	100.6%					
	成果指標	指標名	新規不登校出現率の全国平均値との差（上段：小学生、下段：中学生）						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	△ 0.08 △ 2.02	△ 0.06 △ 2.00	△ 0.04 △ 1.80	△ 0.02 △ 1.60	△ 0.00 △ 1.40	B
		実績	%	△ 0.28 △ 0.77					
		達成率	%	350.0% 38.1%					
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載							総合評価		
							B		
取組の成果及び評価の理由		各スクールソーシャルワーカーが頻繁に学校を訪問し、活動していることから、不登校の出現率はわずかながら全国との差が縮まってきている。							
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題		不登校への働き掛けはスクールソーシャルワーカーの業務の一端であり、不登校以外の課題解決に対するスキルも高める必要がある。							
今後の対応方針		不登校の原因につながる可能性のあるヤングケアラー等の課題解決に対するスキルも高め、結果的に不登校の出現率を下げることを目指す。							
令和5年度の見込み		新規 <u>継続</u> (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了							
事業費（決算額）		年度	R4	R5	R6	R7	R8		
		金額（千円）	11,588						

【横江信一氏】

これまでの事業内容を検証し、数値に現れないところも踏まえ、さらに精度のある分析をしていただきたいと思います。学びサポートセンターをはじめ、子ども居場所づくりに、石巻全体で取り組んでいることが浸透していくことが大変良いことだと思っているので、継続していくところから成果が出てくると考えています。

その中で、小1プロブレム、中1ギャップという幼児期から小学校での集団への適用、小学校から中学校までの顔の見える児童生徒同士のつながり、それを含めたところでの異年齢の関わりというのが、実は、不登校の抑止にもつながる可能性があると考えます。学校教育だけではなく、家庭を含めた、その地域の中で具体的な取組をしていただくと良いと思います。

例えば、子ども会、子ども会育成会、放課後児童クラブなど学校の授業と離れたところでのつながりが、不登校、あるいは、いじめの未然防止などの成果につながるものがあると考えています。

【橋本恵司氏】

不登校の出現率の設定が分かりませんが、評価が100%超えているので、この設定で果たして良いのか疑問がありました。

スクールソーシャルワーカーとカウンセラーの関係が、この事業の中で見えてくるといいのかと思います。関わりは、現場ではあると思うので、その実態も分かると良いと思っています。

それから、ヤングケアラーの問題等が出されていますが、不登校の原因をもう一度明確にすることが必要なのかと思いますし、その面では、福祉部等との連携も踏まえた取組が必要ではないかと思ったところです。

予算面でどこまでスクールソーシャルワーカーを増やせばいいのか、きりがな部分があるので、地域の中での人材の活用が必要ではないか。コミュニティ・スクール等を含めた中でやっていくことが、今後求められていくかと思います。白石市で日本財団からの支援により不登校の施設ができたが、石巻市でも企業からの支援を模索していただきたい。

最後に、市内のフリースクールとNPO団体などをもう一度洗い直し、そこの連携なども必要ではないかと思います。

【吉田和美氏】

県の事業として宮城県における子ども若者支援体制強化を行っている機関に「石巻圏域子ども・若者支援地域協議会」があります。この機関では、子どもや若者を取り巻く問題が複雑・重複化していく中で、支援者はどう対応したらいいのか、複数の団体や行政機関が連携することで課題解決につなげる共同事業の位置付けを担っています。石巻圏域では、指定支援機関としてTEDICが委託を受けていますが、こちらで行われている話合いですとか、研修会というところは、スクールソーシャルワーカーが担うところの業務と非常に近い事業だと思います。

学校関係だと他機関との情報共有に難しさもあると思いますが、子どもたちが安心して学校に通える環境整備は、行政、民間という分野を問わず現場支援者のための場を活用する必要があると考えます。他機関との連携は新たな学びにもつながり、担当者同士のスキルアップの機会となります。直接的支援を行っている現場の困りごとを取りこぼさないように、他機関との連携を模索していただきたいと思います。

また、学校の先生方が足を運ぶのは難しいのかもしれないが、子どもの居場所づくり活動を行っている団体はたくさんあるので、活動を知っていただき御活用いただければと思います。

石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	8	事業名	幼保・小連携推進事業			
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実				
	基本施策	8 幼児教育の充実				
	施策の展開	1 幼稚園・保育所・こども園、小学校との連携の推進				
【総合計画における位置づけ】						
総合計画	基本目標					
	基本施策					
	施策の展開					
	事業名					
担当課	学校教育課・教育総務課・子ども保育課	事業期間	H20	～	摘要	継続
事業概要（目的）						
<p>幼児の生活の連続性及び発達や学びの連続性を踏まえ、幼稚園・保育所と小学校の連携を推進する。また、幼稚園、子ども園及び保育所の人材と経験の有効活用を図り、幼児教育の向上に資する。</p>						
事業効果						
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育所から小学校生活及び小学校教育へのスムーズな移行が図られる。 ・幼児教育、保育の向上が図られる。 						
現状と課題						
<p>小学校との交流は、就学前連絡会議の開催や運動会・学芸会などの行事への参加等に留まっており、十分な連携には至っていない。コロナ禍となり、交流を見合わせている学校もあった。今後は、引き続き幼児教育振興庁内連絡会議において、小学校との連携のあり方について検討し内容の充実を図って行く必要がある。</p>						
事業の実施内容		年度別事業計画				
		R4	R5	R6	R7	R8
幼稚園・保育所・こども園と小学校の就学前連絡会議の開催		実施				▶
幼稚園・保育所・こども園と小学校の交流事業の実施		実施				▶
幼稚園・保育所・こども園と小学校の連携の仕組みづくりと実施		実施				▶
幼稚園・保育所・こども園における人事交流		実施				▶
指標名	単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値
活動指標	箇所	1	2	3	4	5
幼稚園・保育所・こども園と小学校の相互交流研修会の開催						
成果指標	%	60	65	70	75	80
幼児教育から小学校教育への接続を踏まえた小学校との交流・連携が十分に行われていると感じている小学校の割合						
備考						

実施状況及び評価(CHECK)									
令和4年度の事業実施状況		【就学前連絡会議】 幼保小こと連携が取れていると感じている小学校 24校 【交流事業】 幼保小この園児・児童が交流する取組校 6園全園 16校 【人事交流】 小学校管理職経験者の園長登用4校 幼稚園・保育所間の人事交流の実施							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	幼稚園・保育所・こども園と小学校の相互交流研修会の開催						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	箇所	1	2	3	4	5	F
		実績	箇所	0					
		達成率	%	0.0%					
	成果指標	指標名	幼児教育から小学校教育への接続を踏まえた小学校との交流・連携が十分に行われていると感じている小学校の割合						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	60	65	70	75	80	A
		実績	%	72.7					
		達成率	%	121.2%					
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載							総合評価		
							C		
取組の成果及び評価の理由		月1回の連絡会の開催を行っている小学校区もあったが、相互交流研修会の実施は、数値として0にとどまっている。幼児教育の質を高めたり、小学校への接続を十分に意識したりといった連携には、まだ課題がある。							
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題		既存の各園・小学校における連絡会や、庁内連携会議の仕組みを生かし、交流にとどまらない更なる連携が必要である。							
今後の対応方針		アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの擦り合わせを目的とした連絡会や研修会を推進する。また、庁内連携会議の組織を生かした新たな仕組みづくりにも着手する。							
令和5年度の見込み		新規 (継続) (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了							
事業費(決算額)		年度	R4	R5	R6	R7	R8		
		金額(千円)	0						

【横江信一氏】

小学校に入学する幼児の居住地が学区内であれば把握はしやすいが、そうではないところも含めて、難しいところがあります。子ども同士の交流、幼児と小学生との交流に加え、親同士の顔の見える関係づくりが、安心感を作り出していくと思います。

さらに、幼稚園、保育所、こども園の先生方と小学校の先生方の連携交流のあり方が、円滑な接続につながると思います。幼児教育のアドバイザーの働きかけも伺いましたが、重要な役割になると考えています。

【橋本恵司氏】

小学校との交流から連携が十分に行われていると感じている小学校の数値の目標値が令和4年度は60%、実績が72.7%になっていますが、令和5年度の目標値が、それなのに65%、数値の流れを検討することが必要ではないかと思います。総合評価Cの根拠が見えない部分があるかなと思います。そもそも、この事業は、市教委がどのように関わりを取ろうとしているのかが、より見るといいかなと思います。

スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムが具体的に出てきますが、その実施を市教委として、どのように考え、働きかけてきているのか、また、今後、どう働きかけていくのかというところが、課題と思います。これは、小学校が忙しすぎて、これに対応できない部分があると思うので、そのところを小学校の理解を得ながら、どう進めていくかが、これからの課題なのかなと思います。また、民間に移行することも園にも進めてもらうことも課題です。

小学校との交流を考えたときに問題になるのは、やはり学区が様々で、交通費の問題とかは大きいと思います。その保障が石巻市全体として、バスの運行などを各幼稚園、こども園と小学校に割り当てられることが、より交流の幅を広げる部分になると考えています。

また、圧倒的に人数の多い保育所の子どもたちと小学校をどう結びつけるかも大きな課題であり、教育委員会として、どう進めるかが大きな課題と思っていますので、こども保育課と学校教育課で、より強い連携が必要になってくると思います。

【吉田和美氏】

幼稚園、保育所は自分の住む地域に縛られずに園や保育所を選択している養育者も多く、複数のエリアから学校に入学してくる現在の状況での連携が難しいということは、容易に想像できます。また、活動指標となっている相互交流研修会を開催することで本当の意味で連携となっていくのか。また、先生方には転勤もあるので、担当が替わるなど、連携体制が継続しづらい場面も出てくるのではないかと。子どもたちが安心して小学校へ入学できる体制づくりにつなげるという点では、子どもたちだけではなく、養育者の不安も大きいことも課題だと感じています。今後は先生方の連携だけではなく、地域担当の保健師や、PTA、また、コミュニティ・スクール関係の地域住民の皆様の関りも重要になってくると思います。地域の力を借りながら、ますます連携が進んでいくことを期待します。

石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	9	事業名	学校防災推進事業				
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	3 いのちを守る防災教育の推進					
	基本施策	1 防災教育の推進					
	施策の展開	1 防災教育の充実					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち					
	基本施策	いのちを守る防災教育の推進					
	施策の展開	防災教育の充実を図る					
	事業名	学校防災推進事業					
担当課	学校安全推進課	事業期間	H23	～	摘要	継続	
事業概要（目的）							
児童生徒の発達段階に応じた系統的防災教育を実践するとともに、学校防災の充実のために、学校と地域や関係機関等との連携強化を図る。							
事業効果							
児童生徒の実態及び学校の周辺環境に応じた防災教育が実践され、児童生徒の災害対応力が向上するとともに、学校と地域や関係機関等との連携による災害発生時の的確な緊急対応が可能となる。							
現状と課題							
東日本大震災では、大規模災害時における「公助」の限界が明らかとなり、「自助」、「共助」の力を向上させる防災教育が重要となっている。 今後、震災を体験していない児童生徒及び教職員が増えていく中で、いかに児童生徒らに震災の事実、教訓を語り継いでいくかが課題である。							
事業の実施内容		年度別事業計画					
		R4	R5	R6	R7	R8	
防災教育、避難訓練の実施						→	
防災教育副読本の作成と活用						→	
学校防災推進会議による地域と連携した学校防災の推進						→	
指 標 名		単 位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値
活動指標							
学校防災推進会議WG3における防災教育副読本の編集会議		回	3	3	3	3	3
成果指標							
防災教育副読本を活用した防災教育の実施		回	14	15	16	17	18
備考							

実施状況及び評価(CHECK)									
令和4年度の事業実施状況		学校防災推進会議「WG3・防災教育」の会議を3回実施し、委員で協議しながら防災教育副読本の一部改訂を行った。							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	学校防災推進会議WG3における防災教育副読本の編集会議						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	回	3	3	3	3	3	A
		実績	回	3					
		達成率	%	100.0%					
	成果指標	指標名	防災教育副読本を活用した防災教育の実施						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	回	14	15	16	17	18	A
		実績	回	14.1					
		達成率	%	100.7%					
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載							総合評価		
							A		
取組の成果及び評価の理由		防災教育副読本の活用状況については、調査の結果、小・中学校を合わせて、平均14.1回活用している。教育課程の中で、防災教育の時間を確保することは難しいが、市内の学校ではその重要性を認識し、工夫しながら時間を確保し取組んでいる。							
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題		震災を経験していない児童生徒、教職員が増える中、防災教育副読本を活用した授業は重要であり、いつ起こるか分からない災害等に対し、その内容をいかに実践的なものにできるかが課題である。							
今後の対応方針		震災を直接体験した児童や、記憶に残っている生徒が少なくなっている中、震災の教訓を風化させないための取組みをさらに充実させていく。							
令和5年度の見込み		新規 継続 (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了							
事業費(決算額)		年度	R4	R5	R6	R7	R8		
		金額(千円)	5,329						

【横江信一氏】

防災副読本は、各学校がどのように活用するかが重要になってくると思います。その視点として、学校のみならず、家庭、地域への働きかけを図った活用の仕方であったり、それが、どう実践され、地域防災につなげていくか、そのよりどころになるのかが、この副読本であると考えます。さらに、その地域の実情に応じた対応として学校と地域が共に防災の実践を学ぶという場があることにより、さらに防災力を高めることができます。今後、学校、家庭、地域と関係機関との連携や小学校から高等学校までつなげていくことも、大事かと思えます。

コミュニティ・スクールが間もなく市内の全ての小中学校に位置付けられ、その中で防災教育がさらに浸透していくことによって、地域に応じた防災力を高めることができ、さらに継続した取組をお願いしたいと思います。

【橋本恵司氏】

事業効果の中の公助の部分の文言については、誤解を招く部分があるので、直していただくといいかと思っています。副読本の活用、目標値が14回で、実績が14.1回と100%になるが、目標値の設定の根拠が分かると良いかなと思います。

教育課程の中で副読本の使用が難しいと言われていますが、子どもたちの命に関わる部分なので、より強く働きかけることも必要と思っています。

今回の施策がワーキンググループ3ということで、副読本がメインになってはいますが、その他の部分での見直しも必要になってくるし、防災推進会議と現場との意見交換、現場の声を聴きながら防災推進会議の中身をより検討していくということが必要になってくるのかなと思っています。

各学校に震災遺構の見学を取り入れ、教育課程の中に工夫して実施できる体制をとるような進め方も必要だと思います。

それから、小学校に向かう幼稚園、こども園、保育所の子どもたち用の防災かるたなどの遊びながら防災を学ぶような教材の活用にも取り組むことが石巻市として必要と思っています。

【吉田和美氏】

活動指標、成果指標ともにAということで、子どもたちも自分の命を守る大切さを知る機会を日常的に提供していただいていることが理解できました。

震災から12年が経ち、当時を知る小学生は一人もおりません。しかしながら、震災を知らない子どもたちであっても、石巻に住んで、石巻で育つということは、地震や津波、自然災害について、防災教育を切り離すことはできないと思います。

副読本も、防災主任の先生方が毎年会議を重ね、内容について見直ししていることや、学校教育の場面で有効に活用されている点でも非常に評価できます。いざという時の対策や知識を事前に考えておくことが、自身の命を守る行動につながっていくのだと思います。この副読本の内容はデータでも見られるように準備を進めていただいているということでしたので、学校だけではなく、広く市民にも活用してもらえる工夫をしていただきたいと思います。

また、自分の命は自分で守るところを深く理解できるような防災教育になるよう引き続き力を入れていただきたいと思います。

石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	10	事業名	放課後の子どもの居場所づくり事業				
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	4 地域ぐるみで子どもを育てる教育活動の推進					
	基本施策	2 地域との連携・協働の強化					
	施策の展開	1 地域との連携による子どもたちの安全確保・健全育成					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち					
	基本施策	地域ぐるみで子どもを育てる教育活動の推進					
	施策の展開	地域で支える教育活動を支援する					
	事業名	放課後子ども教室推進事業					
担当課	生涯学習課	事業期間	H25	～	摘要	継続	
事業概要（目的）							
<p>市内小学校区において、公共施設を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動の取り組みを実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するものである。</p>							
事業効果							
<p>地域の中で、子どもたちに様々な体験・交流・学習活動の機会を提供することにより、子どもたちの社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を育む。 地域の子どもたちと大人の積極的な参画・交流による地域コミュニティの充実。</p>							
現状と課題							
<p>平成25年度より和瀨小学校地区を対象に開設。平成28年度は上釜地区を加えた2地区で、平成29年度はさらに石巻小学校区を加え3地区で実施する。自主学習・昔の遊び・体験活動を行っている。地域住民が、コーディネーター、学習アドバイザー、安全管理員と役割を分担しながら、教室の運営にあたっている。放課後の児童の安心・安全な居場所づくりに貢献するだけでなく、異年齢者との交流機会の創出や地域住民同士の交流、地域人材の活用によって、地域活性化の高まりが成果として表れている。今後もモデル地区での実践を踏まえ、継続した活動ができるようにしていきたい。</p>							
事業の実施内容		年度別事業計画					
		R4	R5	R6	R7	R8	
放課後子ども教室の設置		実施	実施	実施	実施	実施	
指 標 名		単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値
活動指標							
放課後子ども教室開設数		箇所	4	5	6	7	8
成果指標							
放課後子ども教室に関わった地域住民数		人	56	62	68	74	80
備考							

実施状況及び評価(CHECK)									
令和4年度の事業実施状況		「和っ子クラブ」、「放課後子どもBremen」、「チャレンジキッズinへびた」の3か所で実施した。3か所で年間59回実施し、延べ343名のスタッフ、延べ740名の児童が参加した。「上釜子ども教室」はコロナウイルス感染症対策として、令和4年度の活動を自粛した。							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	放課後子ども教室開設数						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	箇所	4	5	6	7	8	C
		実績	箇所	3					
		達成率	%	75.0%					
	成果指標	指標名	放課後子ども教室に関わった地域住民数						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	人	56	62	68	74	80	A
		実績	人	59					
	達成率	%	105.4%						
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載								総合評価	
								B	
取組の成果及び評価の理由		令和3年度と比較して、実施回数、参加児童数ともに増加した。新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、例年並みの活動を行えるようになった。活動を自粛する団体もあったが、地域住民の協力を得て、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを行うことができた。							
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題		異年齢者との交流機会の創出や地域住民同士の交流、地域人材の活用によって、地域活性化の高まりが成果として表れているが、子どもたちが安全に安心して過ごすことができる場を確保するために、特に高齢化が目立つ「和っ子クラブ」では地域住民の人材確保が必要不可欠である。							
今後の対応方針		新規の放課後子ども教室開設に向けても、各地区のコーディネーターと連携を図り、地域住民の協力を得ながら充実した活動を行っていく。また、外部講師の招聘や、地域住民の確保に努めていく。							
令和5年度の見込み		新規 <u>継続</u> <u>拡充</u> ・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了							
事業費(決算額)		年度	R4	R5	R6	R7	R8		
		金額(千円)	464						

学識経験者からの意見

【横江信一氏】

今回の重点事業の中で唯一、生涯学習課の取組になりますが、学校教育も含めたところで重要な役割をしています。

学校教育課の事業と生涯学習課は別と捉えないで、生涯学習課で取り組んでいるのが学校教育の中に浸透し、さらに、相乗効果があると考えますので、この取組の充実ということについては期待しています。

その中で、学校教育課と共に生涯学習課の取組は、子どもたち一人一人に応じた居場所づくりとしてすごく大事で、不登校の未然防止、あるいは、子ども同士の認め合う人間関係づくり、より良い人間関係づくりにもつながるところが、重要な役割だと思います。その指導的な役割を担っているのが、協働教育コーディネーターではないかと思います。この協働教育コーディネーターが学校教育と生涯学習をつなぐ役割を担っているので、教育委員会から各学校に対して協働教育コーディネーターのリーダーシップが発揮できるよう働きかけをしていただきたいと思います。

学校によっては、取組方が異なっていますが、協働教育コーディネーターの主体的な取組に期待しています。

もう一つですが、月に1回、今でも青少年のための宮城県民会議では、毎月第3日曜日を「家庭の日」と定め、家族で過ごす大切な時間を持つことを推進しています。改めて、子どもたちの居場所というところを見つめ直していただくのも、生涯学習課の取組の視点として、是非、お願いしたいと思います。

【橋本恵司氏】

活動目標の点について、56人という目標値、そして、実績59人で100%を超えた達成率になっていますが、56人というこの数値の設定がどこからきているのかははっきり分かると、達成がされたことが分かると思います。コロナ禍でも前年度を上回る実績を上げているというのは成果だと思います。

事業拡大のためには、どういう方策が取れるのかというところが、これからの工夫だと思います。重点的な地域は進みますが、さらに広めていくためにはどのようなことをしていくべきか、年度ごとに重点地域を指定して進めていくとか、それから、各地域の人材を学校だけでなく、生涯学習課の中で、どう発掘して、活かしていくのかというところが、これから大切なかだと思います。コミュニティ・スクールなどのからみでも、すごく大きいですが、その辺の見直しが必要なのかなと思います。

改めて、各地域を見たときに、いろいろ能力を持っていたり、面白い方々がいっぱいいるわけですが、その発掘を是非お願いしたいと思います。また、情報交換の場を定期的に持つとかしながら、より拡大を図っていくところをお願いしたいと思います。

【吉田和美氏】

コロナ禍において、成果指標の放課後子ども教室に関わった地域住民の延べ人数が、目標値を上回った点で評価Aとなっていますが、今後は、どの学校でも、実施されていくことを期待します。

今後の課題として挙げられている地域コーディネーターの人材育成の難しさや、参加する子どもたちの安全の確保、ボランティア参加の募集方法など、様々な課題があることは認識していますが、小学生は一旦自宅に戻ってからはないと、遊びに来られないなど学校のルールなど規制がある中で、移動児童館事業や、移動型プレーパーク補助金事業などを活用しながら、居場所づくり活動に取り組んでいるところはたくさんあります。地域のNPO団体なども、団体の強みを活かして子どもの居場所づくり活動を行っています。私にとって居場所の定義とは、場所の提供だけの意味ではなく、この人に会いたい、この人といると安心できる愛着形成、安全基地となるような、そういう人の存在も居場所になると考えています。できれば中学生、高校生、大学生のボランティアなどの受け入れも観点に入れていただきたい。学生ボランティアの存在があれば勉強のサポートを受けられたり、一緒に体を動かす機会となるなど、良い効果につながると考えます。これまでとは違った視点をもって事業の継続、拡充を目指していただくことを期待しています

石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	11	事業名	コミュニティ・スクール推進事業				
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	4 地域ぐるみで子どもを育てる教育活動の推進					
	基本施策	3 開かれた学校づくりの推進					
	施策の展開	2 地域の声を生かした学校運営の充実					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち					
	基本施策	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	施策の展開	1 学校教育の充実を図る					
	事業名	コミュニティ・スクール推進事業					
担当課	学校教育課	事業期間	R1	～	摘要	継続	
事業概要（目的）							
<p>市内の小・中学校、市立高等学校に、学校運営協議会を設置することによって、学校や子供たちが抱える課題や、家庭・地域社会が抱える課題を地域ぐるみで解決し、子供達の健やかな成長と質の高い学校教育の実現を図るため、地域の力を学校運営に生かす「地域と共にある学校づくり」を進める。</p>							
事業効果							
<p>学校運営協議会を設置し、「地域と共にある学校づくり」を推進することによって、学校運営に対する地域住民や保護者の積極的な参画が促すことができ、学校や地域の課題解決、学校における教育内容の質的向上を図ることができる。</p>							
現状と課題							
<p>既に導入済みの学校では、学校運営協議会委員が学校運営へ参画することにより、地域人材や教育資源の活用が促進され、教育内容の質的向上が図られている。学校と地域のより円滑な連携、教育内容の充実のために「地域学校協働本部」の整備、地域支援コーディネータの人材発掘が必要である。</p>							
事業の実施内容		年度別事業計画					
		R4	R5	R6	R7	R8	
コミュニティ・スクール検討推進委員会の実施		実施				▶	
学校評議員から学校運営協議会への移行		実施	▶				
自己評価等結果の教育委員会への報告及び保護者への公表		実施				▶	
指標名		単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値
活動指標							
「学校運営協議会」の設置割合（小・中・高）		%	38	64	100	100	100
成果指標							
「学校教育活動に協力している」と回答する保護者の割合		%	80	82	84	86	88
備考	総合計画の指標・目標値と不一致						

実施状況及び評価(CHECK)									
令和4年度の事業実施状況		<p>令和4年度は新たに市内の8校が学校運営協議会を設置し、地域とともにある学校づくりを推進した。また、石巻市コミュニティ・スクール検討推進委員会を4回実施し、石巻市全体の取組について推進計画を検討することができた。</p> <p>11月には石巻市コミュニティ・スクール推進フォーラムを開催した。また、次年度コミュニティ・スクール導入校13校に対する説明会も行った。</p>							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	「学校運営協議会」の設置割合(小・中・高)						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	38	64	100	100	100	B
		実績	%	36.5					
		達成率	%	96.1%					
	成果指標	指標名	「学校教育活動に協力している」と回答する保護者の割合						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	80	82	84	86	88	B
		実績	%	75					
		達成率	%	93.8%					
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載							総合評価		
							B		
取組の成果及び評価の理由		8校が新たに学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクール導入校が19校となったが、目標には届かなかったため活動指標の評価はBとした。また、「学校教育活動に協力している」と回答する保護者の割合は、わずかではあるが目標に届かなかった。							
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題		市内全ての学校の学校運営協議会設置にむけて、「石巻市立小・中学校学区再編計画」を考慮しながらの推進が必要である。学校運営協議会の設置と一体的に進める必要のある地域学校協働活動(地域学校協働本部の設置)を生涯学習課と連携を取りながら推進する必要がある。							
今後の対応方針		各学校、地域に対しての説明会、研修会を実施し、コミュニティ・スクール(学校運営協議会の設置校)の周知・徹底を図る。また、生涯学習課と連携を図りながら、地域学校協働本部を設置し、コミュニティ・スクールとの一体的推進を図る。さらに、令和6年度に学校運営協議会を導入する予定校と連携を図り、設置に向けた準備を進める。							
令和5年度の見込み		新規 (継続) (拡充) (縮小) 休止 廃止 期間満了による終了							
事業費(決算額)		年度	R4	R5	R6	R7	R8		
		金額(千円)	4,461						

【横江信一氏】

全ての学校で学校運営協議会が設置されるよう、順調に進められていると考えていますが、その先に学校統廃合と再編も含めた中学校区を見据えた小中連携を推進していく教育の充実がこれから大事になると思います。

さらに、本市の特色は、市立桜坂高等学校にコミュニティ・スクールが設置された場合の小中との連携のあり方についても検討していただきたいと思います。その観点としては、今後、高等学校ですと、中等教育学校を意識した中高の連携したカリキュラム、つまり、キャリア教育、キャリア形成につなげていくことが、大事な視点かなと思いますので、石巻市としての小中高の連携の在り方を具体的に示していただくと、さらに見えてくると思いました。

さらに、地域学校協働本部の整備がありますので、学校運営協議会を設置したからいいのではなく、地域学校協働本部がどのように機能するかが今後の課題になりますので、情報の共有が研修会になるかと思います。ただ、研修会が一堂に会してとなると、数年経過した運営協議会もあり、初めて設置した運営協議会もありますので、その研修会の運営の仕方についても、工夫をしていただければと思います。

さらに、基本目標の中に、いのちを未来につなぐまちがありますので、この核になるのは、命の教育であり全ての学校で見逃してはならないところではないかなと、私は思います。学校の運営は校長が行っていますが、校長は、原則として3年で異動します。しかし、学校運営協議会は、校長の経営方針に基づき、地域の代表者が様々な指導、助言をしながら、防災のあり方についても、共有する場でもありますので、いのちを未来につなぐという視点から地域で学校を運営する観点からすると、是非、防災教育にも一つ核にして、具体の対応をしていただきたいと考えています。

【橋本恵司氏】

年次ごとに進めてきて、ほぼ順調に進んでいるということで成果は得られていると思います。全体のフォーラム等も開催されて、理解、啓発も図られているのは評価できる点と思います。

コミュニティ・スクールは、学校、地域にとって、どういう意味を持つのか、きちんと押さえて進めていくことが必要というか、学校評議員の制度と違うというか、そういう位置付けなんだというところを、委員になられる方々の意識改革が大切になってくると思いますし、先行して取り組んできている学校の良かった点、成果点なども、今後、開設する学校に伝えながら、より良いコミュニティ・スクールの運営がなされるといいと思います。

そういう面では、学校教育だけでなく、生涯学習、その他の団体等を含めた連携が改めて大切になってくると思います。

【吉田和美氏】

学校運営協議会の設置状況の評価はBとなっておりますが、おおむね計画どおりに進んでいると思われれます。

各学校においてコミュニティ・スクールが導入されておりますが、学校ごとに理解度や進み具合にばらつきがあるように感じます。コミュニティ・スクールの事業目的としては、学校運営に地域の力をいかしていくと理解しておりますが、コミュニティ・スクールが導入されることに対して、地域よりも教職員の方々の理解はどのくらい進んでいるのかの調査も必要になっているのではないのかと感じています。また、推進委員に求められる資質として、地域コーディネーターとしての役割、ボランティアコーディネートの役割が大きいのと思いますが、学校運営や教育活動でどのような困りごとがあるのかというところが、外からは分かりづらく、どのように協力すべきなのかを見出すこと自体が、地域住民としては難しいのではないかなと感じております。

今後は、先生方とコミュニティ・スクール推進委員とで、できるだけコミュニケーションを取りながら、顔の分かる関係性を築き、ほかの学校との情報共有の場も提供していただきたいです。一番大事にしていきたいのは学校の主役が子どもであるということです。大人主体で進んでいくということではなく、子どもたちの意見も取り入れながら、子どもたちが安心安全に学校生活を送れるように事業を推進していただきたいと思います。生涯学習課との連携というところにも期待しております。

石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	12	事業名	いつでも・どこでも・だれでも情報利用整備事業				
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	5 豊かな地域社会をはぐくむ生涯学習の推進					
	基本施策	1 生涯学習の推進					
	施策の展開	2 学習環境の充実					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標						
	基本施策						
	施策の展開						
	事業名						
担当課	図書館	事業期間	R4	～	摘要	新規	
事業概要（目的）							
<p>誰一人取り残さない持続可能な社会実現のため、情報化の推進等物的条件の整備を行い、図書館資料と司書の専門性を活かした情報に関する支援を行う。また、石巻市生涯学習推進計画に基づき、市民一人ひとりが生きがいのある豊かな生活を送るため、「いつでも・どこでも・だれでも」生きいきと主体的に学べるよう必要な支援を行う。</p>							
事業効果							
<p>人と情報とを繋ぐ役割を担う図書館において、情報化の推進等の物的条件の整備を行うことで、一人ひとりの自発的な学習活動を支援するとともに、誰一人取り残さない持続可能な社会実現への取り組みを支援することができる。</p>							
現状と課題							
<p>義務教育において一人一台端末を持つICT教育が推進される一方、低所得者や高齢者といったデジタルデバイスの入手または扱いが困難な市民との情報格差が広がっている。また、誰もが情報を発信することが可能となったため、情報の信頼性を見極める情報リテラシーはより重要度を高めている。図書館は責任表示に裏付けされた資料の蓄積及び情報の専門家である司書がいることが強みであり、現状の課題を解決するため物的条件の整備を行う必要がある。スマートフォン等の普及により、アクセスが容易になった電子書籍と異なり、地域資料は唯一のものである。これをデジタル化することにより地域資料への非来館型のアクセスを可能にする。また、視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）が制定されたが、視覚障害等に限りず来館が困難なことを理由に読書ができない市民が多数いる。これに対応するためにも物理的環境を整える必要がある。</p>							
事業の実施内容		年度別事業計画					
		R4	R5	R6	R7	R8	
ICT機器を活用した読書環境の整備		検討			実施		
障害者サービスの充実		実施					
来館が困難な人へのサービスの充実		実施					
地域資料デジタル化事業		検討				実施	
指標名	単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値	
活動指標							
SNS等での情報発信回数		回	12	18	24	24	24
成果指標							
利用者アンケートによるサービス対象者の満足度		%	55	60	65	65	70
備考							

実施状況及び評価(CHECK)									
令和4年度の事業実施状況		SNS等での情報発信回数: 33回 大文字いしのみき、大文字ミニニュース、点字いしのみき: 36回 (出張図書館については「読書環境整備事業で計上する」)							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	SNS等での情報発信回数						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	回	12	18	24	24	24	A
		実績	回	33					
		達成率	%	275.0%					
	成果指標	指標名	利用者アンケートによるサービス対象者の満足度						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	55	60	65	65	70	A
		実績	%	90.5					
		達成率	%	164.5%					
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載							総合評価		
							A		
取組の成果及び評価の理由		市民に向けてSNS等での情報発信を行った。視覚障害のある方へ大文字いしのみき、大文字ミニニュース、点字いしのみきを月1回発行した。活動指標、成果指標ともに目標値を達成している。							
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題		現在行っている事業については利用者から9割を超える満足度を得ており、事業コストもあまりかかっていない。今後、実施を予定している事業については、事業費の確保の問題もあるが、効果的な実施に向けて手法の検討等計画的に行っていく必要がある。							
今後の対応方針		ICT機器を活用した読書環境の整備や地域資料のデジタル化について、利用方法、コンテンツの整理を行うなど実施に向けた具体的な検討を行っていく。また、R5年度に導入するサピエについて、庁内担当課と連携して周知を行い、利用を促進する。							
令和5年度の見込み		新規 <u>継続</u> <u>拡充</u> 縮小) 休止 廃止 期間満了による終了							
事業費(決算額)		年度	R4	R5	R6	R7	R8		
		金額(千円)	25,359						

【横江信一氏】

いつでも・どこでも・誰でもというところ、大事な視点だなと思いながら、事業内容を見ますと、障害者サービスの充実であったり、あるいは、来館が困難な人へのサービスの充実ということからすると、継続して取り組んでいることについては、高い評価を持っています。

その中で、ICT機器を活用したことについては、令和6年度まで、環境整備の関係から検討が必要と思います。あるいは、デジタル化事業についても、令和7年度まで検討が必要などころもあるかと思いますが、今、若い人たち、あるいは、小中学生、高校生も含めたところでの文字離れ、読書離れが進んでおり、そういうところで、デジタル化した新聞を見ればいいのですが、次のページを開きながら、あるいは、もう1回戻していくとか、いろんな形で、その情報収集能力、情報を選択していく力とか、子どもの頃から培う必要あるなと思ったときの、デジタル化を推進していくことについては、早急に対応していくことが大事になってくるのかと思います。

その動線の中に図書館があれば、すぐ図書館に寄ることもできますが、遠方から通っている高校生であったり、地域にお住まいの方々にとっては、合間を見てスマートフォンやタブレットで検索しながら、図書館の情報を得られるということが大事になっていくと思いますので、さらなる充実を検討いただきたいと思います。

石巻市図書館の近隣には県内唯一の市立の女子高等学校がありますので、高校生が読書に親しみ、図書館を活用しながら、地域の方々との交流の場を作っていただくことも大切なことだと思いました。

【橋本恵司氏】

目標値が12回で、実績が33回ということで、当然、達成率は、高くなると思いますので、この目標値の設定が果たしてどうだったのかなというところが一つあります。同じように、アンケート、満足度の設定についても同じような数値の部分があるので、もう一度検討いただきたいと思います。

視覚障害者のニーズが、今回、大きな文字での取り組みがなされているわけですが、そのほかにどういうニーズがあるのかということも、把握しながら、より良い拡大を図っていけるといいのかなと思いました。ICT機器の設置と活用についてもなされているので、これから期待される場所ですが、地域の資料ということも、図書館と文化財保護委員がタイアップしながら地域の資料をデジタル化していく試みは大事だなと思いますので、強力で推進していただきたいと思います。アンケートをもとにして、不満度などの把握もしていますので、より多くの来館者が得られるような工夫をしていただきたいと思います。

そういう面から考えると、市役所の1階に、図書館の分館のような形で、気軽に本を読めるスペースがあると、高校生も含めて待ち時間などで、たまにはスマホでない本に触れるという居場所もあるとよりいいのかなと思いますので検討をお願いします。

【吉田和美氏】

総合評価がAとなっており、利用されている方々にとっては非常に満足度が高い取り組みであるということは理解できました。

しかし、アンケートの対象者がかなり限定的であるということで、この情報を必要としている方々はもっとたくさんいるのではないかなと感じています。誰一人取り残さず、正しい情報を広く届けていただけるような事業として、重要な、大切な事業であると思いますので、今後はより多くの方にこの事業を知ってもらい、しかも活用していただけるように発展していくことを期待しています。大文字いしのまき、大文字ミニニュースをこの中でも知っている方どのくらいいるか、情報があふれている時代だからこそ本当に身近なところでも、情報を届けること、周知することが難しいという状況です。どうしたら広報がうまくいくのかという点においても、発信するだけではなく、どういうふうに発信していくのかというところにも視点を持ち、工夫していただければと思います。